



がんばれ！ がんばれ！ 熱気あふれる 大会でした。



走り幅跳



やり正確投



砲丸投



60m車いす走



入場行進

水泳競技表彰



五月十三日に行われた陸上競技には、全県下から四百五十人の選手が参加、トラックに、フィールドに熱戦が展開された。
この日行われた車いす千五百メートル走を含め、水泳競技及び盲人卓球と、本大会は三つの新規種目を取り入れ、一部種目にチーム得点制を採用するなど、より楽しく、工夫を凝らした大会となった。
大会では、運営全般にわたり、高校生、大学生、社会人のスポーツクラブなどを中心として二百人近くのボランティア

まるで身体の一部になりきったようにキヤスター(前小輪)が浮き上がる。車幅ギリギリの赤と白の旗門、スロープや段差の障害物をものともせず、前進、後進の切り替えもあざやかに、ゴールへ向って快走するス

ラロームの車いす。六十メートル前方の鐘の音だけを頼りに全力疾走する選手たち……。
五月十三日の日曜日、第二十一回熊本県身体障害者体育大会(陸上競技部門)の会場となった、県身体障害者福祉センターグラウンド(熊本市長嶺町)は、あいにくの曇り空にもかかわらず、それぞれの障害を克服して力強くプレーする選手たちの熱気があふれた。
この大会は、東京

オリピックが開かれた昭和三十九年に始まり、毎年開催されている。今年の大

は、四月二十二日に、卓球及びアーチエリーが県身体障害者福祉センターで、水泳競技が県立総合体育館プールで開催された。
水泳競技は、今年度からの新規種目というこ



車いすスラローム



走高跳

力があった。今後、このような形での大会運営が定着すれば、「身障者の心身の健全な発達を図る」とともに「身障者に対する社会の理解を深める」という趣旨にふさわしい、すばらしい大会に成長していくのではないだろうか。

力があつた。今後、このような形での大会運営が定着すれば、「身障者の心身の健全な発達を図る」とともに「身障者に対する社会の理解を深める」という趣旨にふさわしい、すばらしい大会に成長していくのではないだろうか。



障害急歩表彰

ボランティアの人達も一緒に風船競技

団体優勝熊本市